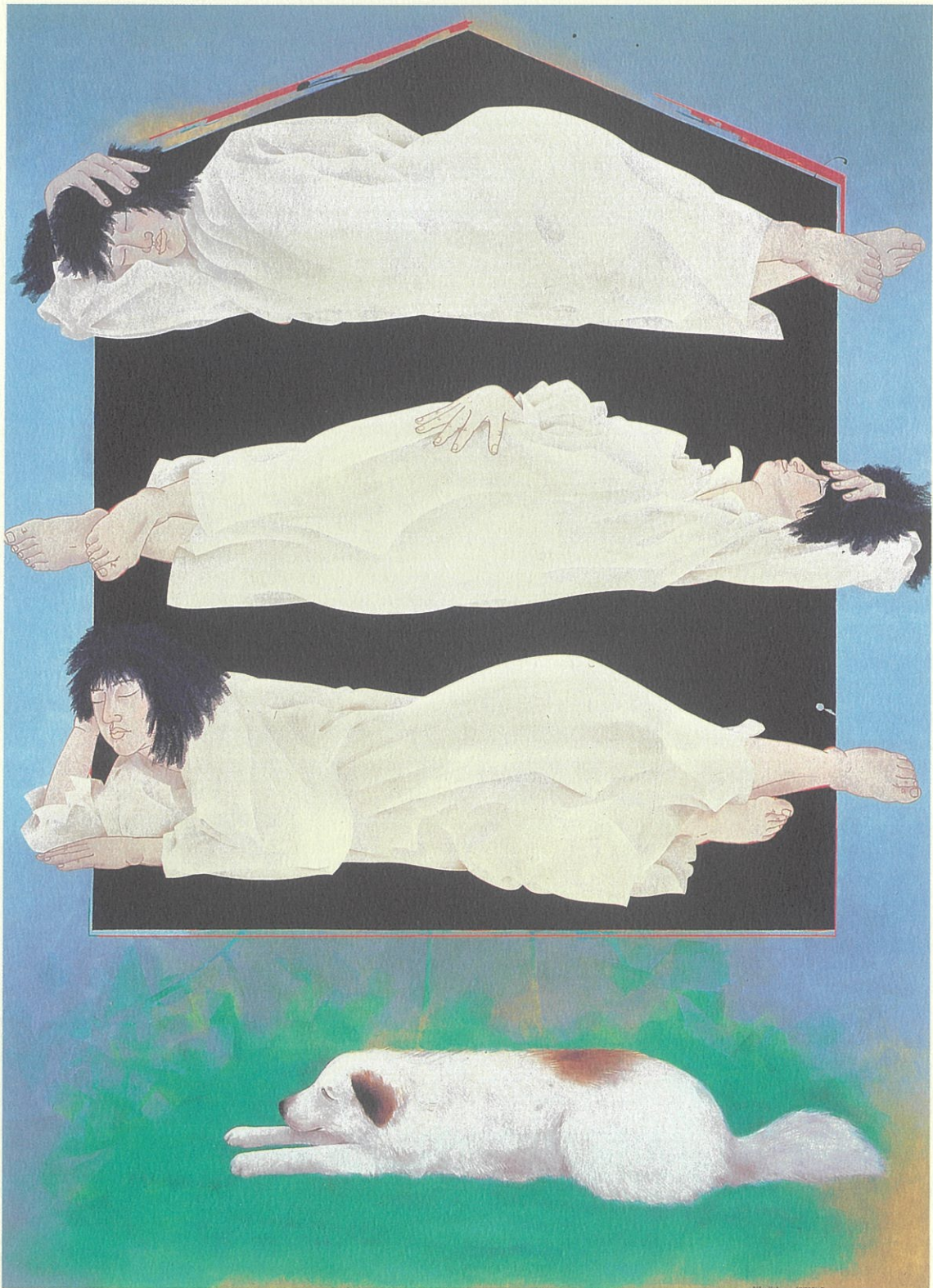


新しい空間処理、新しい日本画の在り方を僕の絵の中にみつけてもらいたい。



いきなり拒絶反応をしないで、「何でこんな絵を描くの」と思ってくれればいいです。

眠 * '88-8 1988年 紙本彩色(220.0×160.0) 神奈川県立近代美術館蔵

中島千波 特別展 展

Exhibition of Nakajima Chinami

1993年[平成5年]

7月9日[金]——7月26日[月] 午前10時～午後6時
▶7月12日[月]のみ休館

【入場料】一般[高校生以上]500円 前売券・割引300円▶中学生以下無料

横浜市民ギャラリー Yokohama Citizens' Gallery

〒231 横浜市中区万代町1-1 (横浜市教育文化センター内)
JR関内駅南口駅前・大通り公園入口 ☎045(671)3721

◎優待割引——本チラシご持参の方2名様まで入場料500円を300円に割引いたします。

【主催】

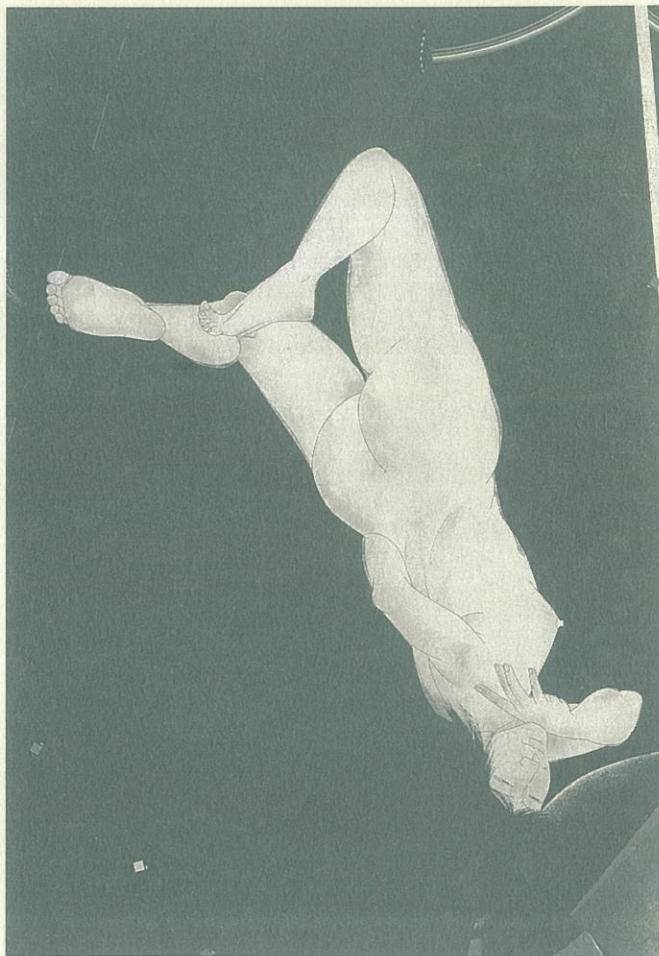
横浜市・横浜市教育委員会
中島千波展実行委員会

日本画の新鋭として、現代社会を見つめ生
 新たな表現世界に挑戦している中島千波。伝統
 の大河のなかで、若き仲間たちとともに日本画
 の未来を信じ、ひたむきに駆ける姿は、この10
 年間の「横の会」を通じた創作発表に現れて
 います。

「横の会」は、日展、院展、創画会をはじめ無
 所属の作家をまきこんで、若手の創作・研究
 グループとして、1984年に結成され、1993年
 に「現代日本画の行方」展で終止符を打ちま
 した。千波は、院展に出品を続けながら「横の
 会」の結成に参画して意欲的な話題作を発表
 してきました。アクロバティックなポーズの裸婦を
 通して、色と形の新しい空間構成を追究した
 「形態」シリーズ、人間の睡眠というユニークな
 テーマをとらえながら、創造性のエネルギー
 の凝集を表現する「眠」シリーズ。その多才な
 絵画の探究姿勢は、広く現代日本の美術界
 においても次代を荷なう画家として注目されて
 います。

本展は、中島千波による「横の会」出品作
 を中心にしなが、伝統美の表現世界と対峙
 する、社会性、精神性の高い作品の系譜に焦
 点をあて、現代美術としての日本画の新たな表
 現と現代性の所在を探ろうとするものです。

僕の中には、具体とシュールと抽象が入り混じっているのです。



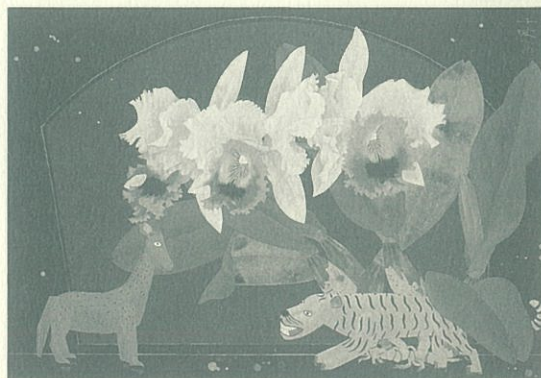
形態* '84-3-T.3 1984年 (162.2×112.2cm) 神奈川県立近代美術館蔵

略年譜

- 1945年 日本画家中島清之の3男として疎開先の長野県小布施町に生まれる。48年横浜に帰郷。
- 1969年 第4回神奈川県美術展に「窗外」を出品し横浜高島屋賞を受賞。日本美術院第24回春季展と第54回院展に初出品し入選、以降同展に出品を続ける。東京芸術大学美術学部日本画科を卒業、大学院に進む。
- 1970年 第5回神奈川県美術展に「青」を出品、K氏賞を受賞し同館に収蔵される。
- 1971年 第56回院展に「草の主」が入選。日本美術院院友となる。東京芸術大学大学院を修了。
- 1979年 今日の日本画・第5回山種美術館賞展で「衆生・視」が優秀賞を受賞する。
- 1984年 横の会結成に参加。第1回「日本画 この新しき仲間たち」に「形態* '84-3-T.1」などを出品、以降、毎年出品する。
- 1988年 宮尾登美子「きのね」朝日新聞の連載小説の挿絵を制作。
- 1989年 中島千波・林功・松本勝3人展(愛媛県大三島町美術館)。(ユーロパリア1989ジャンボ現代日本画展)(ベルギー)に「眠'88-3」(四曲半双)を出品する。
- 1990年 1983年に父清之の後を継ぐ制作依頼のあった、横浜・三溪園臨春閣第6室襖絵「不二と桃花」[松林図]が完成。第75回院展に「眠* '90-8」を出品、奨励賞を受ける。日本美術院特待となる。
- 1992年 おぶせミュージアム「中島千波館」が開館され、中島千波・清之父子展が開催される。
- 1993年 第10回横の会展に「眠→空* '92-11」を出品する。同会は「現代日本画の行方」展をもって終了。



草の主 1971年 紙本彩色 (170.0×221.0cm) 栃木県立美術館蔵



かとれあと虎と馬 1982年 紙本彩色 (50.0×72.7cm)

【関連イベント】

- ◆中島千波とクロッキーデッサン「人間のからだってステキ」
 7月10日[土]午前10:30~12:00 午後1:30~3:00
 対象——小・中学生〈各回20名・抽選〉・講師——中島千波〈日本画家〉
 申込み——横浜市民ギャラリーへ7月2日[金]まで往復はがきで。受講料無料。
- ◆中島千波(ギャラリートーク)
 7月11日[日]・24日[土] 各日とも午後2:00開催
 7月24日[土]ゲスト草薙奈津子〈美術評論家〉
- ◆〈トークショウ 現代美術としての日本画〉
 7月18日[日] 午後2:00~4:00
 横浜市民ギャラリー・地下1階アトリエ・入場無料〈先着80名〉
 天野一夫〈品川0美術館学芸員〉 中島千波〈日本画家〉 永山聡子〈アーティスト〉

